

実績報告書

届出者	住所	兵庫県加古郡稲美町中一色876番1	氏名	株式会社神戸物産 代表取締役社長 沼田 博和
特定事業者の主たる業種		58飲食料品小売業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に食品の販売を行っており、2020年3月末時点で全国で856店舗出店し、内、大阪府内では92店舗の出店を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2017年	4月	1日	～	2020年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2019)年度
温室効果ガス総排出量	23,775 t-CO ₂	25,967 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	28,042 t-CO ₂	30,625 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019年度)	第1年度 (2017年度)	第2年度 (2018年度)	第3年度 (2019年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ 削減率(原単位ベース)	3.0%	6.3%	7.7%	16.2%
削減率(平準化補正ベース)		3.0%	6.3%	7.7%	16.2%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(業務面積㎡*営業時間h)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>例年通りではございますが、エアコン・照明・冷蔵冷凍ケース等を適正に使用するよう各店舗に周知した結果、オーナーや店舗の省エネ意識が高まり、温室効果ガスの削減に繋がっていると思われまます。</p>

(2) 推進体制

<p>消費電力の増える夏場前などに節電マニュアルをFCオーナー様・全店舗に向けてメール配信し、省エネに対する取り組みを周知しています。今後も省エネ設備の導入を推進し、温室効果ガスの削減に努めて参ります。</p>

実績報告書

届出者	住所	大阪市東淀川区東淡路5-8-38	氏名	株式会社国際興業大阪 代表取締役 山本 康夫
特定事業者の主たる業種		43道路旅客運送業		
該当する特定事業者の要件		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 レ 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要		主に、タクシー事業で淡路営業所250台・我孫子営業所149台・茨木営業所36台・摂津営業所20台で合計455台で旅客運送事業を行っております		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間				
2017年	4月	1日	～	2020年3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2019)年度
温室効果ガス総排出量	12,849 t-CO ₂	13,453 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	12,868 t-CO ₂	13,508 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019年度)	第1年度 (2017年度)	第2年度 (2018年度)	第3年度 (2019年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0%	36.6%	19.1%
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.1%	36.5%	19.2%	-5.0%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

営業車の日常点検及び、法定点検でタイヤの空気圧を基準値調整する事で、燃費の維持や、事故防止に努めてまいります。全営業社員に休憩時、待機時間が長い場合アイドリングストップ実施を継続。本年度の実績報告が目標に対して大幅にオーバーした理由としては、対策計画書における2016年度の基準年度である報告内容に報告漏れが有り、本年度の実績報告において計上した結果であります。
報告漏れが無ければ燃料消費量については、稼働率低下及び従業員の減少などにより2016年度の基準年度と対比して明らかに減少しております。

(2) 推進体制

従来のエコドライブ実施及びアイドリングストップの徹底指導に加え、冷暖房の設置温度を定め、使用量削減を目指す。月1回、朝の7時から9時に出庫する車両にタイヤのエアチェックを行い、営業社員への空気圧調整の指導を行っています。
--

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市淀川区宮原1-6-10	氏名	株式会社 互惠会 代表取締役 土居 布加志
特定事業者の主たる業種		83医療業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		大阪市淀川区に位置し、21診療科、病床数300床を有する急性期病院である		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間
2017 年 4 月 1 日～ 2020 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2019)年度
温室効果ガス総排出量	3,202 t-CO ₂	2,727 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,328 t-CO ₂	2,883 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019 年度)	第1年度 (2017 年度)	第2年度 (2018 年度)	第3年度 (2019 年度)
選択	レ 削減率(排出量ベース)	3.2 %	-2.5 %	2.2 %	14.9 %
	削減率(原単位ベース)	%	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.3 %	-2.5 %	4.8 %	13.4 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(延床面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>基準年度に対し2019年の実績は、約14.9%のエネルギー使用削減に成功した。 これまで行ってきた冷熱源やファンコイル、外調機といった設定温度の調整や稼働時間など改善を通じた結果であると考えている。</p>
--

(2) 推進体制

<p>エネルギー使用に関するデータの共有と、平年との比較を通じ改善を検討する会議を実施。 またエネルギーの使用量の増減について、その場所や原因などの調査をおこなっている。</p>

実績報告書

届出者	住所	東京都品川区東品川4-10-1	氏名	コナミスポーツ株式会社 代表取締役社長 有坂順一
特定事業者の主たる業種		80娯楽業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		フィットネスクラブ運営		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2017年	4月	1日	～	2020年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2019)年度
温室効果ガス総排出量	20,634 t-CO ₂	16,068 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	22,624 t-CO ₂	17,723 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019年度)	第1年度 (2017年度)	第2年度 (2018年度)	第3年度 (2019年度)
選択	レ 削減率(排出量ベース)	3.0%	15.4%	22.5%	22.2%
	削減率(原単位ベース)	%	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0%	15.5%	22.5%	21.7%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

全社的にエネルギーコスト削減＝温室効果ガス排出量削減に取り組んでおり、基準年度から大幅な削減を達成しています。設備投資では動力システムのインバーター制御システムの導入、館内の照明のLED化を進めており、大きな効果が出ています。また、プールの昇温にヒートポンプ加温システムを導入するなど新たな試みも行い、さらなる温室効果ガスの削減を進めています。

(2) 推進体制

社長

- └ 計画管理責任者<エネルギー管理統括者>(担当執行役員)
- └ 計画推進責任者(兼)技術管理者<エネルギー企画推進者>(施設開発部施設管理グループ統括マネージャー)
- └ 【各施設】推進責任者(施設支店長)